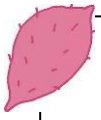
１１月の園だより

令和４年１１月１日
目黒区立田道保育園　園長

澄み渡った秋空の下、園庭では芋ほりごっこが大ブームです。先月４、５歳児が芋ほり遠足に行き、沢山のさつまいもを掘ってきてくれました。大きな芋は焼き芋や給食のメニューにしますが、小さい芋は子どもたちの遊びに使っています。ある日、保育士が園庭の砂場に芋を埋めておくと、初めに気づいたのは砂遊びが大好きな１歳児クラスの子どもたちでした。砂の中から芋を見つけると傍にいた保育士に「なに」と見せています。「おいもだね、お兄さんたちが持ってきてくれたね、まだあるかな」と保育士が返すとまた意気揚々と掘り始めました。でも次に掴んだのは葉っぱのツルでした。苦笑いしながら「葉っぱだった」とつぶやいた表情が少し大人びていて可愛かったです。「もう一回」と保育士が一緒に掘ると今度は大きな芋が出てきました。みるみる表情が変わって「おっきい（大きい）」と満足そうでした。その隣では“芋ほり遠足ごっこ”（おでかけごっこ）をしていた２歳児クラスの子どもたちが保育士を先頭に「着いた、芋を掘ろう」と砂場に入ってきました。子どもたちはまさか本当のお芋がでてくるとは思ってもみなかったので目を丸くして驚き、もっと見つかるかと興奮した様子で芋ほりが始まりました。今では掘ったものを小屋に運び、シャベルで芋を切り、お芋屋さんごっこや料理ごっこをして楽しんでいます。乳児期の遊びを楽しく展開していくためには保育士のしかけが大きな役割を果たしています。子どもたちが笑顔になる保育をこれからも繰り広げていきたいと思います。



今月の予定

焼き芋会　　※中旬　身体計測　避難訓練

素敵な出会いがいっぱい

乳児クラスエピソード

０歳児クラスが園庭に少しずつ出始めた春の頃、お部屋とは違う賑やかな雰囲気に泣いてしまう子がいました。そんな様子を見ていた２歳児クラスの子が「なんで泣いてるの」と心配しています。「まだお庭が少し怖いみたい」と返すと「そっか」と言いながらも“お庭って楽しいのに”という心の声が聞こえてきました。しばらくして戻ってくると泣いている子に「お花あげる」と手に持っている花を差し出してくれました。その日は「ありがとう」と担任が代わりに受け取りました。

次の日から、園庭で会えた時はいつも「〇〇ちゃん」と声をかけに来てくれました。泣いている時もあれば、少し反応する時もありながら過ごしていったある日、差し出した花に手を伸ばして受け取りました。もらった子も嬉しそうで、あげた子も「先生　持ったよ」と大喜びでした。自分より小さい子に優しくしたい思いが伝わってきました。今ではすっかり慣れ、園庭で会うと「あっ　〇〇ちゃん」と嬉しそうに笑い合っています。０歳児クラスの子は大きいクラスの魅力的な遊びに“憧れの眼差し”で近づいて手を伸ばしてみたり、１、２歳児クラスの子は、“年上”をちょっと意識しながらやって見せたり優しく声を掛けたりと、保育園ならではの関わりが生まれています。

園庭では小さな出会いの中で“憧れ”や“思いやり”の気持ちが自然と育っています。

一緒に遊ぶのってたのしい ～戸外遊び編～

園庭や散歩先で遊ぶ３歳、４歳、５歳児クラスの子どもたちの様子をご紹介します。

『　もういい～よ　』　３歳児クラス（ぺんぎん組）

クリーン公園に着くとすぐに「ねぇ、かくれんぼしようよ」と保育士や友達を誘い「じゃあ〇〇ちゃんと先生が見つける人ね」とかくれんぼが始まります。今までは木の陰に隠れているつもりでも体が見えてしまっていることや隠れていても早く見つけて欲しくて、「ばあ！ここでした」と見つかる前に出てきてしまうこともありました。最近ではどこに隠れれば見つからないかを子どもたちなりに考えて隠れる場所を探しています。垣根の中にしゃがみこみ「しーっ。お話ししちゃだめだよ！静かにしなきゃ見つかっちゃう」と友達と肩を寄せ合い、見つからないようにじっと隠れる様子はなんともかわいい光景です。見つかっても「次は絶対見つからないから」と走り出し別の場所を探し公園中を巡ります。少しずつ“かくれんぼ”の楽しさがわかりはじめています。見つからないように…と身を隠し、ドキドキ感を楽しむ子どもたちです。

『　みんなでドッジボール　』　４歳児クラス（いるか組）

園庭に出ると「ドッジボールやりたい」「ドッジボールやる人～」と声をあげ、子どもたち同士で誘い合っています。人も集まり、始めようとした所で「元外野（もとがいや）、誰かやってよ」「私、中（ないや）がいい」「外野いないとできないじゃん」と揉めてしまいました。真ん中で逃げまわる内野の方が魅力的な様子で“早くやりたいけど外野はいや”という思いが飛び交いなかなか決まりません。しばらくすると「じゃあ私やるよ」としびれをきらした子が外野に出てくれました。ちょっぴり不満そうにしながらも周りの子たちから「ありがとう」と言われ照れたように笑っていました。無事にドッジボールが始まると揉めたことも忘れて白熱しました。楽しむ中でルールを理解し、元外野はあとで中に戻れるということがわかると、次の元外野決めでは、「じゃ私　元外野やるよ」とすんなり決まり、繰り返し楽しんでいました。友達と一緒に遊ぶ中で思いがぶつかり合うこともありますが、ルールや楽しさがわかると盛り上がり友達と遊ぶ醍醐味を感じています。

『　今日のルールは・・・　』　５歳児クラス（くじら組）

園庭や公園で楽しんでいる氷鬼。鬼にタッチをされると氷になりその場で固まり、仲間がタッチしてくれると氷は溶け、また逃げられるというルールの鬼ごっこです。子どもたち同士でメンバーを集めて鬼決めをし、人数が多く集まった時には「鬼は３人にする？」「でも鬼が速すぎるからすぐ捕まっちゃうよ。２人にしよう」などと考えを出し合い進めています。鬼も逃げる側もやっていく中でどんどん作戦が深まっていき、タッチされ固まっている子の近くを仲間の助けが来ないよう鬼がガードすると「守っちゃいけないんだよ！」と言い合いになる時もありました。しかし、「じゃあ守るのは無しにしようよ」「でもこんなに離れてたらい守ってるってわけじゃないよ」「じゃあ近すぎるのはなしね」等と提案しながら改めてルールを確認し、保育士が間に入らなくても自分たちで話し合い、解決に向かおうとする姿が出てきています。走るスピードもまた一段と上がり、避けきれずにぶつかってしまった時の衝撃も大きいのですが「いったぁ～」と顔をしかめながらも、手当てもそこそこに「もういい？はやくしないと！」と言ってすぐにまた走り出します。痛みより、友達とやる鬼ごっこの楽しさの方が勝るのだとわかる場面でした。